

新型コロナウイルス感染症対策に係る医療的ケア児・者及び重症心身障がい児・者のアンケートの実施について

令和3年3月17日（水）
保健福祉部障がい保健福祉課

1 趣旨

- (1) 医療的ケア児・者又は重症心身障がい児・者が感染した場合や、その保護者が感染し、代わって本人の介護ができる親類や利用可能な訪問サービス事業所が身近にない場合などにおいては、それぞれの状況等を考慮しながら、医療機関への入院等により、医療的ケア児等の安全・安心な療養環境を確保する必要があること。
- (2) こうした状況に備えて、あらかじめ、本人の病状や障がいの程度、保護者と家族の状況などを把握し、個別の事情に応じて入院等の支援が適切に受けられるよう、医療的ケア児等に係るアンケート調査を実施し、調査結果をもとに、受入先の事前調整・検討等を進めることを目的とした。

2 アンケート実施後の対応

医療的ケア児等やその保護者が感染した場合に、個別の事情に応じた適切な支援が受けられるよう、アンケート結果をもとに、入院先や在宅支援の調整方法等について検討している。

(1) 本人が感染した場合

- ・ 入院等搬送調整班による入院先の調整

(2) 主な介護者が感染し、本人が濃厚接触者である場合

- ・ 医療的ケア児等の同居者が陽性となった場合、医療的ケア児等の介助は他の同居者や親類などで行うことを基本とする。
- ・ あらかじめ同居者と医療機関等との間で、こうした際の受入について調整が行われている場合は、医療機関等の指示に従い、同居者自身で入院等の手続きを行う。
- ・ 同居者自ら受入先を確保することが困難な場合は、県障がい保健福祉課において、入院等調整班の協力の下、受入の調整支援を行う。

(3) 同居者が PCR 検査を受ける場合の医療的ケア児等本人の検査等について

- ・ 医療的ケア児等の同居者が陽性となり、その後に、医療的ケア児等が PCR 検査を受けることとなる場合、検査結果が判明するまでの間、本人を介助できる者がいないといった事態が想定される。
- ・ 医療的ケア児等の同居者が PCR 検査を受ける場合は、その後の速やかな支援につなげるため、可能な範囲内で医療的ケア児等の検査も同時に実施するなどの配慮を各保健所に対して依頼している。

【参考】

新型コロナウイルス感染症対策に係る医療的ケア児・者及び重症心身障がい児・者のアンケートの実施概要について

1 実施期間

令和2年6月25日（木）～7月10日（金）
（市町村が各世帯に調査票を配付し、回収するまでの期間）

2 アンケートの主な調査項目

（1）基本情報

- ① 本人の氏名、年齢、生年月日、性別、住所
- ② 保護者の氏名、続柄、電話番号、同居家族の状況
- ③ 障がい者手帳の有無、特定疾患等の有無、障害支援区分、運動機能、意思表示の程度

（2）医療的ケアの状況

- ① 医療的ケアの具体的な状況
- ② 主治医とその医療機関、普段から利用している医療機関
- ③ 日常的に利用しているサービス、緊急時に利用しているサービス

（3）新型コロナウイルス対応について

- ① 主な介護者が感染した場合に、本人の受入先として、希望するもの（医療機関、短期入所事業所、自宅等）
- ② 主な介護者が感染し、本人を預ける際に利用を想定している交通手段

3 結果概要

（1）回答者数

298人

（2）本人の医療的ケアの状況

レスピレーター（人工呼吸器）管理を行っている方は37人（12.4%）、気管内挿管・気管切開をしている方は65人（21.8%）となっている。

医療的ケアの内容	人数	割合※
①レスピレーター	37人	12.4%
②気管内挿管・気管切開	65人	21.8%
③酸素吸入	67人	22.5%
④たん吸引	103人	34.6%
⑤ネブライザー	48人	16.1%
⑥経管栄養	93人	31.2%
⑦その他	109人	36.6%
⑧医療的ケアなし	62人	20.8%

※回答者数298人に対する割合
（複数回答あり）

(3) 主な介護者の内訳

主な介護者としては**母親が最も多く、208人(69.8%)**となっている。

主な介護者	人数	割合
①父母	8人	2.7%
②母	208人	69.8%
③父	11人	3.7%
④祖母	4人	1.3%
⑤夫または妻	30人	10.1%
⑤その他	37人	12.4%
合計	298人	100.0%

(4) 主な介護者が感染し、本人が濃厚接触者の場合の自宅での介助の可否

主な介護者が感染し、本人が濃厚接触者となった場合に、他の同居家族により、自宅での介助を続けることができるかとの問いに対して、**147人(49.3%)**が**介助できない**と回答。

介助の可否	人数	割合
①自宅での介助 可	106人	35.6%
②自宅での介助 不可	147人	49.3%
③無回答	45人	15.1%
合計	298人	100.0%

(自宅で介助ができない主な理由)

- ・主な介護者以外に同居者がいないため
- ・父親が仕事を休めないため
- ・父親一人で子ども二人の世話をするのは困難なため
- ・家族も感染するかもしれないため

(5) 主な介護者が感染した場合、本人の介助を依頼できる親戚の有無

主な介護者が感染し、本人が濃厚接触者となった場合に、本人の介助を依頼できる親戚がいるかとの問いに対し、**222人(74.5%)**が**介助を依頼できる親戚がない**と回答。

親戚の有無	人数	割合
①介助を依頼できる親戚 あり	50人	16.8%
②介助を依頼できる親戚 なし	222人	74.5%
③無回答	26人	8.7%
合計	298人	100.0%

(6) 主な介護者が感染した場合の本人の預け先の第1希望

主な介護者が感染した場合に、本人の預け先として希望するところはどこですかとの問いに対し、100人(33.6%)が「主治医がいる医療機関」を第1希望としている。

預け先の第1希望	人数	割合
①主な介護者の入院先	63人	21.1%
②主治医がいる医療機関	100人	33.6%
③普段から利用する医療機関	9人	3.0%
④障がい児者対応の医療機関	8人	2.7%
⑤短期入所事業所	35人	11.7%
⑥自宅を希望	51人	17.1%
⑦その他	32人	10.7%
合計	298人	100.0%